

令和02年(2020年)度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

西浦田楽保存会（静岡県浜松市）

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

毛馬内盆踊り振興会（秋田県鹿角市）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

川越まつり協賛会（埼玉県川越市）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

柿田 勝郎（石見神楽面の製作）（島根県浜田市）

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第4類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

御宝殿熊野神社稚児田楽・風流保存会（福島県いわき市）

地域伝統芸能奨励賞

静岡県立横須賀高等学校郷土芸能部（三社祭礼囃子）（静岡県掛川市）

受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

にしうれでんがくほぞんかい

西浦田楽保存会（静岡県浜松市）

西浦の田楽は、養老3年（719年）に僧の行基（ぎょうき）がこの土地を訪れて観音像を奉納したことが始まりとされている、五穀豊穡や無病息災を祈る祭りです。

祭主となる別当、舞を踊る能頭、能衆という、それぞれの所役（しょやく）を受け持つ家の長男への口伝による世襲制で継承されてきました。

田楽本番は毎年旧暦1月18日の月の出から翌朝までですが、それまでの精進生活や前準備などに非常に厳しい戒律があるのが特徴です。別当は祭りの1ヶ月以上前から家族と火を別にした精進料理を食べ続け、能衆たちは1週間前から同様の生活を始めます。そして当日使用する別当用と能衆用の酒、鬼ぐすと呼ぶ御神酒、稗団子、オオパンと呼ぶ味噌田楽などが継承された作法のもと作られています。祭りは「天狗祭り」という、別当家の天井裏で行われる別当だけで行われる秘事から始まります。他にも数々の儀式が行われ、夜から地能（神へ捧げる舞）、はね能（芸術的な舞）という2部構成の舞が朝まで続き、「しずめ」という最も厳粛な儀式で終了します。

田楽は男性だけで行われますが、これを影で支えてきた女性たちの努力は絶大で、この土地で田楽を継承する男子を産み育て精進料理を母から嫁へと伝承し男衆を支えてきました。

民俗学者の折口信夫から愛され、国の重要無形民俗文化財1号にもなった、この貴重な田楽を守る保存会の活動は深刻さを増す山間部の過疎化や少子高齢化問題の解決に光をあてることにもつながっています。



地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

けまないぼんおどりしんこうかい

毛馬内盆踊り振興会（秋田県鹿角市）

毛馬内の盆踊りは江戸時代中期には踊られており、秋田県三大盆踊り（西馬音内、一日市、毛馬内）の一つに数えられています。

長い歴史と伝統をもって踊り継がれてきた毛馬内の盆踊りは、情緒豊かでこれまでの変遷過程を示す貴重かつ地域的特色が顕著な盆踊りとして、昭和47年に県無形民俗文化財、平成10年に国指定重要無形文化財に指定されました。

毛馬内盆踊りは、大太鼓と笛の囃子で踊る「大の坂」と、無伴奏の唄のみで踊る「甚句」の二つで構成されています。踊り手衣装は、一般に男性は紋付等の着物に水色のケダシ、さらに男女とも手ぬぐいで頬拭きをするという特徴があります。毛馬内盆踊り振興会は、祭りの運行や運営に努め、毛馬内の盆踊りの振興、活性化、後継者育成の為50年前から振興会主催で子供盆踊りコンクールを開催するなど、文化財の保護と継承に尽力しています。



一般財団法人

地域伝統芸能活用センター

かわごえ きょうさんかい
川越まつり協賛会（埼玉県川越市）

小江戸川越の最大の祭りである川越まつりは、1648年が起源とされ、長い歴史と伝統を有しています。例年10月の第3土曜日、日曜日に実施されるこのお祭りでは、市内を山車、屋台が曳き回され、蔵造りの街並みを背景として勇壮なものとなっています。

川越氷川祭の山車行事としては平成17年国の重要無形文化財に指定され、川越市民が楽しめるとともに、県内外や海外からの観光客を誘致し、観光と商業の振興に多大に貢献しています。平成28年10月15日・16日の観光客数は、約98万人と多く、祭り実施期間中のお土産販売、食べ物消費の増加や市内宿泊施設への宿泊者の増加など地域商工業に大きな経済効果を与えています。

この祭りを保存し、全市的な祭りに発展させることを目的として組織を作り、主催しているのが「川越まつり協賛会」であり、同会の観光振興、地域商工業の振興に対して大きな貢献をしています。



かきた かつろう
柿田 勝郎（石見神楽面の製作）（島根県浜田市）

石見地方は神楽が盛んで特に明治に入り神楽の団体が次々と結成され石見地方から広島県にかけて、同じ形態を持つ神楽の団体が優に300に及び、これらの団体が一齐に使用するのが石見神楽面（技法分類＝長浜面・市来面）であり、強靱な楮（こうぞ）半紙で作られた和紙の面です。日本の各地で神楽は踊られますが、これほど多くの神楽の団体が一同に和紙の面を使うのは大変珍しく全国類を見ません。柿田氏は独学で石見神楽（長浜面）の製作技法を学び、昭和47年に自身の工房である柿田勝郎面工房を立ち上げ、以降面制作という立場から石見神楽の発展を支えています。



ごほうでんくまのじんじゃちごでんがく・ふうりゅうほぞんかい
御宝殿熊野神社稚児田楽・風流保存会（福島県いわき市）

福島県いわき市錦町の熊野神社の7月31日から8月1日にかけて例大祭が行われてきている。演じられるものは、稚児田楽と風流が中心となり、豊作か豊漁を占いの銚立て、豊作祈願の稚児田楽、豊年感謝の鷺舞、鹿舞、獅子舞などで構成されます。

ざらっこ（稚児田楽）は、笛、太鼓の囃子方に対して、からす、うさぎの役がそれぞれ一人、ざらっこ六人の計八人の稚児が、四人ずつ向かい合ってびんざさらを摺りながら田楽踊りを展開します。この舞は芸能化する前の古風な姿をとどめたものといわれています。獅子舞は県内に例を見ない構成でしかも呪術的な要素もあります。祭りの参加者は、神社周辺の氏子だけでなく、その範囲は県内では稀に見るほど広いです。それだけに、祭り行事が多彩であるうえに、参加者、観客も極めて多く、福島県を代表する祭りの一つであります。この祭りは神事・芸能とも多彩であるだけでなく、古風な信仰形態をより残しています。



静岡県立横須賀高等学校郷土芸能部（静岡県掛川市）

静岡県立横須賀高等学校郷土芸能部は、平成8年の創部以来、郷土の誇りである遠州横須賀「三社祭礼囃子」を習い覚え、地域のイベント等のあらゆる機会にて披露するとともに後世へ伝えようと活動しています。

部員は毎日2時間以上の練習に取り組み、週2回の夜間練習では地元の三社祭礼囃子保存会の方々より指導を受け、その成果を年間90回以上の舞台にて披露しています。各地区の納涼祭や敬老会等の行事、近隣の福祉介護施設への慰問公演、静岡県や近隣市町の観光協会主催イベント等、活動は多岐にわたります。

これまでに平成30年度静岡県高等学校総合文化祭郷土芸能部門の最優秀賞、平成30年度静岡県文化奨励賞を受賞しました。静岡県代表として全国高等学校総合文化祭へ9回、国民文化祭へ2回出場しています。さらに平成29年8月に開催された全国高等学校PTA連合会静岡大会における歓迎アトラクションやお見送りイベントにおいても三社祭礼囃子を披露し、多くの観客に感動を与えました。

舞台出演に加えて、会場設営やテント張り、椅子並べ等の準備作業を通して地元の住民との触れ合いやおもてなしの心の大切さを学んでいます。福祉介護施設への慰問公演では施設利用者との交流も欠かさず、さらに学校近隣のバス停のゴミ拾いや町内清掃等も練習の合間に行い、故郷への感謝の気持ちを養っています。

このような活動が評価され、平成28年3月に静岡新聞静岡放送文化福祉事業団主催の第5回ふるさと貢献賞を受賞しました。部員は卒業後も各地区にて祭りの青年リーダー的存在として活躍し、小中学生に太鼓や踊りを教えるなど地域活性化の一役を担っています。

